



環境教育プログラム「五感を使って、自然体感」

平成26年度初任者研修（全県宿泊研修）が、7月22日から4回に分けて実施されました。3泊4日の2日目に、班毎に6つの内容から一つの活動を選ぶ環境教育プログラムを行いました。

このプログラム実施の目的は、環境教育・自然体験のプログラムを体験するとともに、学校でこのようなプログラムを作成するにあたっての気づきの視点を学ぶことです。あくまで、指導者としての立場での目的ですが、「活動の本当の面白さを伝えるには、自分自身が楽しまなければならない」という考え方を実践するかのごとく、先生方は、子どもの頃と同じように時間が過ぎていくのを忘れるぐらい夢中になって取り組んでおられました。

それぞれの活動の感想を紹介すると、

- ① 自然で、自然と、自然に遊ぼう！
 - ・実際に自然を感じることができ、とても有意義でした。そして、幅広い視点から指導する技術が必要だと感じました。
- ② 自然の中から創り出そう！
 - ・グループの一人一人が、テーマにそってそれぞれの個性で作品を作り、それらをまとめて一つの作品に仕上げるのが面白かったです。
- ③ 南但馬の自然を味覚で感じよう！
 - ・竹で炊飯をし、竹で食器類も作り、竹で工作も出来、正に五感を使って活動することができました。達成感も大きかったです。
- ④ ひのき（檜）の下枝で、ひのきーホルダー！
 - ・古くから日本で利用されているひのきを使って、キーホルダーなどを作れて、本当に嬉しかったです。
- ⑤ ウォーターレンジャー（すいすい調査隊）
 - ・南但馬自然学校の自然環境を実体験しながら学べて、良かったです。
- ⑥ ヤングエイジにタイムスリップ（隠れ家づくり）
 - ・班で協力することの大切さ、役割、分担の良さを感じました。教師は、どのようにサポートできるのかグループで考えさせられました。



その他の先生方の感想には、研修のテーマである「気づき・つながり・支えあう」を意識したものが多くありました。また、子ども目線だけでなく、子どもたちの安全面も考える必要性を感じたという教師目線での感想もありました。

本校では、平成23・24年度に、「原体験度調査結果の分析と自然学校プログラムの検証」をテーマとして調査・研究を進めてきました。子どもたちへのアンケート結果から、子どもたちの一番低い原体験が「木体験」で、「生えている木や竹などの立木を切りたおしたことがある」という項目でした。



そこで、平成25年度からは、「原体験の重要性から見る今後の自然学校の在り方」を研究テーマとして、木体験に関する新たな活動の開発と木（竹）伐採活動を通しての児童の気づきについての分析を進めています。

竹伐採にかかる4泊5日のプログラム例として、下記の趣旨やねらいでの「発見！！竹からできる生活」というアクティビティシートを作成しました。単発の活動をつなぎ合わせたプログラムではなく、竹伐採からのつながりのある活動を組み入れたものを目指しています。

（趣旨） 子どもたちは、気付かないうちに日常生活の様々な場面で竹を使っている。また、日本の歴史の中でも竹は生活と密接なつながりがあった。そこで、「竹」をテーマにした5日間の自然学校の活動を構成し、子どもたちが竹を知り、竹と生活との関係を学ぶとともに、みんなと力を合わせることで仲間との協力や困難を乗り越える自立性などを育てていきたい。

（ねらい）

- ・伐採した竹を使った活動を通して、日常生活と竹が密接に関係していることを実感することによって、竹の「命」への感謝の気持ちを持つことができる。
- ・仲間と協力して活動を行う中で、協調性を育む。

初任者研修での「南但馬自然学校の自然を味覚で感じよう！～かんたんアウトドアクッキング～」は、正に本校の進めようとしているプログラムのショートバージョン版です。



竹を伐採して、笹を落とした約10mぐらいの竹をみんなで運び、竹飯盒・竹食器・竹箸として使用するために加工していきます。節があり、中が空洞という竹の性質を生かし、のこぎりやなた等工具を使って野外炊事で使う飯盒を作っていきます。節に穴を空け、そこから米と水を入れ、通常は横に寝かして使用する竹筒を立てた状態にして炊き、最後に竹を半分に分けて食べた班もあったようです。炊いたご飯を、自分たちで作った食器に移し、竹箸で食べるほど、味わいのある活動はないでしょう。ご飯のおいしさを満喫することが出来ると思います。竹食器・竹箸を作った時の廃材は、当然、燃料として燃やしきっています。昨年度、同様の活動をした小学校は、使い終わった竹飯盒をキャンプファイヤーの薪としても使用していました。そして、残った時間を使って、竹とんぼを作って遊んでしました。

小学校の場合、このような活動を1日だけでは難しいかもしれませんが、2～3日間に分けてじっくりと取り組むことが出来ます。とにかく、単発で終わるのではなく、連続性のある活動、プログラムになるといいと考えています。

編集後記

今回は、初任者研修の環境教育プログラムから、竹を有効活用した活動を中心に、「指導課だより」を作成しました。竹飯盒でのご飯はお勧めです。（文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也）